

授業科目 (科目ID)	社会福祉学		担当教員	鈴木 道代		
			(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)		15	時間数	30時間
授業目的	社会福祉とは何か、それを必要とする人々や生活とはどういう状況であるかを理解することが目的である。また、現在の社会福祉の理念、様々な社会福祉法制の仕組み、サービス体系についても学習する。以上を踏まえて、現代社会において社会福祉を必要とする人々への理解を深めてもらいたい。					
到達目標	①「社会福祉」という概念を理解できる。 ②生活との関連で社会福祉を必要とする対象者を理解できる。 ③様々な社会福祉法制・サービス体系を理解し、その概略を説明できる。 ④①～③の理解を通して生活における社会福祉の必要性を説明できるようになる。					
テキスト・参考図書等	プリント配布(各自ファイリングし、毎回持参すること) なお、公欠以外のプリント再配布はしない 参考書:『社会福祉用語辞典』山縣文治ら編(2013)ミネルヴァ書房、『現代の社会福祉』鈴木幸雄編(2012)中央法規 など					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	90%	定期試験、提出物点を合算して評価を行う			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	10%				
	その他	%				
履修上の留意事項	後半の授業では視聴覚機材を用いる。また、学生に意見を求める場合、積極的な発言を求める。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題			履修内容	
	1	オリエンテーション 社会福祉の意義①～社会福祉とは何かを考える			・授業の説明 ・社会福祉の定義	
	2	社会福祉の仕組みと生活①～生活概念を学ぶ			・生活概念について	
	3	社会福祉の仕組みと生活②～社会福祉の仕組みと対象者、法的枠組みを学ぶ			・社会福祉の対象を学生に確認する ・社会福祉の対象について説明する ・社会福祉法、社会福祉法制について説明する ・社会福祉の利用形態・給付形態を説明する	
	4	社会福祉の利用形態と援助方法①～社会福祉を担う専門職とソーシャルワークの視点について学ぶ			・社会福祉を担う専門職 ・ソーシャルワークの視点 ・コミュニケーションの構成要素	
	5	社会福祉の利用形態と援助方法②～社会福祉で活用する援助方法を事例から学ぶ			・個別援助技術について説明 ・バイステックの7原則 ・関連援助技術	
	6	現代社会の変化～現代社会の人口動態や家族構成の変化を学ぶ			・年齢3区分 ・少子社会・高齢社会の現状 ・家族形態の変化・家族観・機能	
	7	児童家庭福祉①～児童家庭福祉の概要と児童虐待防止法を学ぶ			・児童福祉の概念 ・児童福祉法・児童憲章 ・児童虐待防止法 ・児童養護施設(DVD視聴)	
	8	児童家庭福祉②～ひとり親家庭への支援と特別養子縁組を学ぶ			・ひとり親家庭の実態と施策 ・特別養子縁組について(DVD視聴)	
	9	障害者福祉①～障害概念とノーマライゼーションを学ぶ			・障害概念 ・ノーマライゼーション (DVD視聴)	
	10	障害者福祉②～障害者福祉の対象、就労、障害者差別解消法を学ぶ			・障害者福祉の対象 ・障害者雇用促進法 ・障害者差別解消法 ・DVD(発達障害)視聴	
	11	低所得者福祉①～貧困概念とその現状、貧困の連鎖について学ぶ			・絶対的水準論、相対的水準論 ・集団の連鎖(DVD視聴)	
	12	低所得者福祉②～生活保護の概要、実態、生活困窮者自立支援の概要を学ぶ			・生活困窮者自立支援(DVD視聴) ・生活保護法	
	13	高齢者福祉①～介護保険制度の概要を学ぶ			・介護保険制度	
	14	高齢者福祉②～高齢者概念と老化、生きがいについて学ぶ			・高齢者の定義 ・老化と生きがい	
15	高齢者福祉③～認知症高齢者の現状を学ぶ			・高齢期の身体的特性と精神的特性 ・DVD視聴		

授業科目 (科目ID)	薬理学		担当教員 (実務経験)	竹本 功 薬学博士。道内医科大学病院等にて薬剤師として40年以上の勤務経験を有する		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数	15時間
授業目的	患者のQOL改善には職能間での情報交換が必要であり、特に医薬品の関与が欠かせず、その基本的な知識により幅広い情報提供ができること。					
到達目標	1) 医療人として、医薬品の重要性を理解すること。 2) チーム医療の一員として、主な医薬品の主作用と副作用、取扱い、薬物療法の習得をすること。					
テキスト・参考図書等	わかりやすい 薬理学 第3版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験において、100点満点中60点以上が合格とする。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	%					
履修上の留意事項	2コマ単位で授業を進行する。講義終了5～10分前に復習を行う。特に、総論・末梢神経作用薬・中枢神経作用薬・抗炎症薬・ホルモン系作用薬・抗感染薬を中心に講義をする。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	総論(1)	薬理学の概念、主作用と副作用、薬物動態と薬効			
	2	総論(2)	小児・妊婦・高齢者の薬物治療、医薬品の規制と保管・管理			
	3	末梢神経作用薬、中枢神経作用薬①	自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬、鎮静睡眠薬			
	4	中枢神経作用薬②、循環器系作用薬①	向精神薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、降圧薬、心臓作用薬、腎臓作用薬			
	5	循環器系作用薬②、抗炎症薬	血液造血管系作用薬、非ステロイド性消炎鎮痛薬、その他			
	6	呼吸器系作用薬、消化器系作用薬	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、胃炎・抗消化性潰瘍薬、催吐薬・制吐薬、催下薬			
	7	ホルモン系作用薬、抗感染薬	糖尿病治療薬、骨粗鬆症治療薬、抗菌薬			
	8	消毒薬・抗がん剤、補習	種類と使用方法・抗がん剤、プリント・スライド			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	基礎作業学実習Ⅲ		担当教員 (実務経験)	池田 保 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として10年勤務	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数 45時間
授業目的	限定的作業分析ができる。作業の治療的応用について考察し具体的な手段を列挙することができる。教授法について理解を深めることができる。				
到達目標	限定的作業分析を通じて、作業の特性を捉え方について列挙できる。				
テキスト・ 参考図書等	吉川ひろみ:COPM・AMPSスターティングガイド 三輪書店				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40%	COPM・AMPSは期末テストと提出課題で評価する。 合同レクは、提出課題にて評価する。 折り紙、マクラメ等、木工は、限定的作業分析表などの提出課題と作品点で評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	60%			
その他	%				
履修上の 留意事項	限定的作業分析を通じて、作業の治療的応用や教授法を検討する。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業オリエンテーション、包括的作業分析から限定的作業分析へ		
	2	限定的作業分析(1)	COPMを使った作業分析と評価、ライフスタイル分析による限定的作業分析		
	3	限定的作業分析(1)	COPMを使った作業分析と評価、ライフスタイル分析による限定的作業分析		
	4	限定的作業分析(1)	COPMを使った作業分析と評価、ライフスタイル分析による限定的作業分析		
	5	限定的作業分析(1)	COPMを使った作業分析と評価、ライフスタイル分析による限定的作業分析		
	6	限定的作業分析(2)	合同レク参加場面による限定的作業分析		
	7	限定的作業分析(2)	合同レク参加場面による限定的作業分析		
	8	限定的作業分析(3)	AMPSを使った作業分析と評価・IADL場面における限定的作業分析		
	9	限定的作業分析(3)	AMPSを使った作業分析と評価・IADL場面における限定的作業分析		
	10	限定的作業分析(3)	AMPSを使った作業分析と評価・IADL場面における限定的作業分析		
	11	限定的作業分析(3)	AMPSを使った作業分析と評価・IADL場面における限定的作業分析		
	12	教授法の検討	未経験作業を試行する。クラスメートに分かりやすく指導する方法を検討する。 (折り紙・マクラメ等)		
	13	教授法の検討	未経験作業を試行する。クラスメートに分かりやすく指導する方法を検討する。 (折り紙・マクラメ等)		
	14	教授法の検討	未経験作業を試行する。クラスメートに分かりやすく指導する方法を検討する。 (折り紙・マクラメ等)		
15	教授法の検討	未経験作業を試行する。クラスメートに分かりやすく指導する方法を検討する。 (折り紙・マクラメ等)			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	教授法の検討	未経験作業を試行する。クラスメートに分かりやすく指導する方法を検討する。(折り紙・マクラメ等)
	17	限定的作業分析(4)	身体障害領域患者を想定しての木工(ミニラックづくり)
	18	限定的作業分析(4)	身体障害領域患者を想定しての木工(ミニラックづくり)
	19	限定的作業分析(4)	身体障害領域患者を想定しての木工(ミニラックづくり)
	20	限定的作業分析(4)	身体障害領域患者を想定しての木工(ミニラックづくり)
	21	限定的作業分析(4)	身体障害領域患者を想定しての木工(ミニラックづくり)
	22	限定的作業分析(4)	身体障害領域患者を想定しての木工(ミニラックづくり)
	23	限定的作業分析(4)	身体障害領域患者を想定しての木工(ミニラックづくり)
	24	まとめ	後期期末テスト

授業科目 (科目ID)	作業療法管理学		担当教員 (実務経験)	池田 保 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として10年勤務	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必須	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	より質の高い作業療法を提供するため、保健、医療、福祉に関する制度への理解、マネジメント能力の向上、作業療法教育・倫理等について理解することを目的とする。				
到達目標	作業療法士が知っておくべき医療・福祉関連の制度や法規の範囲と内容を理解する。 作業療法士としてのマネジメントの重要性を理解し、診療報酬や施設基準の概略を知る。 リスクマネジメントの考え方を理解する。臨床現場における教育の重要性を理解する。				
テキスト・ 参考図書等	参考図書:作業療法管理学入門(医歯薬出版)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験により評価する		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	臨床へ臨むにあたり、作業療法士は対象者との治療関係だけではなく、組織における役割も同時に果たす必要があります。関係法規とマネジメントに対する理解を深めることで、一層の資質向上を図りましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 法律について	オリエンテーション、法の階層、法とは		
	2	関係法規概論	OTの職業倫理、個人情報の保護		
	3	関係法規①	PT・OT法、障害者差別解消法、医療法		
	4	公的扶助論	生活を支える所得の保証		
	5	社会保障制度	社会保障制度		
	6	関係法規②	精神保健福祉に関する法律の変遷、精神保健福祉法		
	7	関係法規③	医療観察法		
	8	関係領域	障害者総合支援法、感染症対策、バリアフリー法		
	9	作業療法倫理①	作業療法の職域と役割、作業療法管理マネジメント		
	10	作業療法倫理②	情報のマネジメントと医療安全のマネジメント		
	11	作業療法倫理③	作業療法業務のマネジメント①		
	12	作業療法倫理④	作業療法業務のマネジメント②		
	13	作業療法倫理⑤	作業療法業務のマネジメント③		
	14	作業療法倫理⑥	作業療法士の職業倫理		
15	作業療法倫理⑦	作業療法士のキャリア教育			

授業科目 (科目ID)	身体障害作業治療学実習 I		担当教員 (実務経験)	水尻 恵利伽 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として5年勤務	
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	身体障害領域の作業療法実践の基本的考え方を理解する。主要な疾患・障害をもつ対象者の問題点に対応するプログラム立案の基礎力を身につける。				
到達目標	身体障害領域における代表的疾患に対する基本的な治療アプローチについて知り、基本的な治療プログラムを立案することができる				
テキスト・ 参考図書等	図解作業療法技術ガイド 第4版、標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版、動作分析 臨床活用講座				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験において、100点満点中60点以上を合格とする。 本試験で60点未満の場合は、再試験によって60点以上を合格とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	この科目において、身体障がい作業療法の治療的関わり方の基礎を学びます。講義と実習を交えて行います。評価実習では治療的関わり方までは行いませんが、妥当性のある目標設定のためには、基本的な治療的アプローチを理解している必要性があります。作業療法の守備範囲の広さも併せて理解しましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	治療学概論	オリエンテーション及びアプローチ概論		
	2	脳血管障害に対するアプローチ	脳血管障害による片麻痺対象者に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
	3	脳血管障害に対するアプローチ	脳血管障害による片麻痺対象者に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
	4	脳血管障害に対するアプローチ	脳血管障害による片麻痺対象者に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
	5	脳血管障害に対するアプローチ	脳血管障害による片麻痺対象者に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
	6	脳血管障害に対するアプローチ	脳血管障害による片麻痺対象者に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
	7	脳血管障害に対するアプローチ	脳血管障害による片麻痺対象者に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
	8	運動器障害に対するアプローチ	筋骨格系・運動器の障害に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
	9	運動器障害に対するアプローチ	筋骨格系・運動器の障害に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
	10	運動器障害に対するアプローチ	筋骨格系・運動器の障害に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
	11	運動器障害に対するアプローチ	筋骨格系・運動器の障害に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
	12	運動器障害に対するアプローチ	筋骨格系・運動器の障害に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
	13	運動器障害に対するアプローチ	筋骨格系・運動器の障害に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
	14	神経難病に対するアプローチ	パーキンソン病をはじめとする、神経難病に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ		
15	神経難病に対するアプローチ	パーキンソン病をはじめとする、神経難病に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	失調症に対するアプローチ	失調症(主として小脳性失調)に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
	17	失調症に対するアプローチ	失調症(主として小脳性失調)に対する作業療法アプローチの基礎を学ぶ
	18	活動制限に対するアプローチ	日常生活活動・日常生活関連活動改善を目標にした作業療法アプローチを学ぶ
	19	活動制限に対するアプローチ	日常生活活動・日常生活関連活動改善を目標にした作業療法アプローチを学ぶ
	20	活動制限に対するアプローチ	日常生活活動・日常生活関連活動改善を目標にした作業療法アプローチを学ぶ
	21	活動制限に対するアプローチ	日常生活活動・日常生活関連活動改善を目標にした作業療法アプローチを学ぶ
	22	参加制約に対するアプローチ	作業療法の重要領域である参加領域の問題点の捉え方と、そこに対するアプローチを学ぶ
	23	参加制約に対するアプローチ	作業療法の重要領域である参加領域の問題点の捉え方と、そこに対するアプローチを学ぶ

授業科目 (科目ID)	身体障害作業治療学実習Ⅱ	担当教員 (実務経験)	目黒 文彦 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として14年勤務		
対象年次・学期	3年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	身体障害領域の作業療法実践について、身体障害作業治療学実習Ⅰの内容を理解したうえで、更に専門性の高い治療理論と実践を理解する。より幅広い対象者に適切かつ具体的なプログラム立案ができるようになる。総合臨床実習Ⅱ・Ⅲに向けて、適切なプログラム立案ができるようになる。				
到達目標	内部障害に対する作業療法を含め、幅広い身体障害領域に関する治療的視点と治療実践に関する知識を習得する。				
テキスト・参考図書等	人間作業モデル 第5版、図解作業療法技術ガイド4版、作業療法ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学 改訂第2版 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	臨床で活躍されている先生方からの実践的な講義が多くあるので、積極的に聴く姿勢を大切に受講すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	人間作業モデル	人間作業モデルの基本構造、臨床場面での適用を理解する		
	2	人間作業モデル	人間作業モデルに関連する評価・治療モデルを理解する		
	3	脊髄損傷対象者への作業療法①	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ		
	4	脊髄損傷対象者への作業療法②	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ		
	5	脊髄損傷対象者への作業療法③	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ		
	6	脊髄損傷対象者への作業療法④	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ		
	7	脊髄損傷対象者への作業療法⑤	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ		
	8	脊髄損傷対象者への作業療法⑥	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ		
	9	脊髄損傷対象者への作業療法⑦	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ		
	10	脊髄損傷対象者への作業療法⑧	臨床現場における脊髄損傷者の治療、障害の実際について学ぶ		
	11	呼吸リハビリテーションにおける作業療法	呼吸リハビリテーションの実際について学び、作業療法の役割を学ぶ		
	12	呼吸リハビリテーションにおける作業療法	呼吸リハビリテーションの実際について学び、作業療法の役割を学ぶ		
	13	癌のリハビリテーションにおける作業療法	緩和ケア、終末期リハビリテーションの実際について学び、作業療法の役割を学ぶ		
	14	癌のリハビリテーションにおける作業療法	緩和ケア、終末期リハビリテーションの実際について学び、作業療法の役割を学ぶ		
15	内部障害の作業療法	内部障害(虚血性心疾患、糖尿病、腎障害)に対する理解を深め、作業療法の役割を学ぶ			

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	内部障害の作業療法	内部障害(虚血性心疾患、糖尿病、腎障害)に対する理解を深め、作業療法の役割を学ぶ
	17	内部障害の作業療法	内部障害(虚血性心疾患、糖尿病、腎障害)に対する理解を深め、作業療法の役割を学ぶ
	18	内部障害の作業療法	内部障害(虚血性心疾患、糖尿病、腎障害)に対する理解を深め、作業療法の役割を学ぶ
	19	脳卒中リハビリテーションにおける作業療法アプローチ	脳卒中対象者を想定し、作業療法治療目標に沿ったプログラム立案
	20	脳卒中リハビリテーションにおける作業療法アプローチ	脳卒中対象者を想定し、作業療法治療目標に沿ったプログラム立案
	21	脳卒中リハビリテーションにおける作業療法アプローチ	脳卒中対象者を想定し、作業療法治療目標に沿ったプログラム立案
	22	脳卒中リハビリテーションにおける作業療法アプローチ	脳卒中対象者を想定し、作業療法治療目標に沿ったプログラム立案
	23	身体障害作業療法の治療的アプローチについてのまとめ	身体障害の作業療法についてこれまでの内容を振り返り、改めて整理する

授業科目 (科目ID)	精神障害作業治療学実習		担当教員 (実務経験)	小熊 真喜子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として勤務		
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	精神科作業療法に関連する、治療理論・関連療法を学ぶ。					
到達目標	①精神科作業療法で用いられる治療理論、関連療法を体験する。②治療援助の実際について整理し、活用していける基礎とする。③自己の特性に気づき、治療的 自己の利用の基礎とする。					
テキスト・ 参考図書等	精神障害と作業療法 第3版、わかりやすい交流分析、精神障害リハビリテーション学、看護場面の再構成					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	90%	前期定期試験90% 授業内提出課題10%			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	10%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	様々なアプローチ、視点について学ぶ。授業の内容は次々に変わるが、一つ一つ整理しながら学ぶことが大切である。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション・再構成	授業の説明 対象者の理解・ロールプレイを用いた再構成			
	2	オリエンテーション・再構成	授業の説明 対象者の理解・ロールプレイを用いた再構成			
	3	集団療法①	グループダイナミックスの定義と治療的意義、グループワーク体験と振り返り			
	4	集団療法②	グループダイナミックスの定義と治療的意義、グループワーク体験と振り返り			
	5	交流分析	交流分析の種類 エゴグラム・構造分析			
	6	認知機能障害に対する評価と治療	評価法(BACS-J/UBOMなど)と治療手技			
	7	認知機能障害に対する評価と治療	評価法(BACS-J/UBOMなど)と治療手技			
	8	認知行動療法①②③	認知行動療法論と基本訓練モデル・認知行動療法演習・SST			
	9	認知行動療法①②③	認知行動療法論と基本訓練モデル・認知行動療法演習・SST			
	10	認知行動療法①②③	認知行動療法論と基本訓練モデル・認知行動療法演習・SST			
	11	WRAP	WRAPの概要と体験			
	12	WRAP	WRAPの概要と体験			
	13	心理教育	心理教育の概要と体験			
	14	マインドフルネス	マインドフルネスの概要と体験			
15	やまいの語りを聴く	NBMIにおける傾聴のポイント・語り体験と振り返り				

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	やまいの語りを聴く	NBMにおける傾聴のポイント・語り体験と振り返り
	17	当事者研究	当事者の人生体験の聴講・共有体験
	18	当事者研究	当事者の人生体験の聴講・共有体験
	19	ケアマネジメント	精神障害者ケアガイドライン
	20	人としてとらえる視点①	精神障害者の一日、半生 精神障害者の一日・半生
	21	人としてとらえる視点②	精神障害者の思い・精神科作業療法・健常者と精神障害者の違い
	22	人としてとらえる視点③	精神障害者の処遇の経過
	23	人としてとらえる視点④	支援のあり方、当事者の願いと運動

授業科目 (科目ID)	精神障害作業治療学実習	担当教員 (実務経験)	小熊 真喜子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として勤務
対象年次・学期	3年・前期	担当教員	河野 仁志
授業形態	実習	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内精神科病院に6年勤務。国立大学にて精神障害作業療法等を24年間に渡り担当
		担当教員 (実務経験)	服部 厚隆 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内精神科デイケアに10年・就労継続支援事業所にて7年精神保健福祉士として勤務
		担当教員 (実務経験)	杉本 千晴 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内精神科病院、デイケアにて16年以上勤務
		担当教員 前期定期試験90% 授業内提出課題10%	佐藤 和正 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内精神科病院・医療施設にて13年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	発達障害作業治療学実習		担当教員	水尻 恵利伽		
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	道内病院・介護施設にて作業療法士として5年勤務
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	発達障害領域の治療法について学び、理解を深める。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害分野における治療アプローチを列挙できる。 ・発達障害領域の作業療法の考え方と実践事例を説明できる。 					
テキスト・参考図書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 発達過程作業療法学第3版 感覚統合Q&Aこどもの理解と援助のために 改訂第2版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	85%	定期試験は前期に行う。 期末テスト点は85点満点とし、グループ課題・個人課題での提出物による基礎点15点とする。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	15%				
	その他	%				
履修上の留意事項	実習・グループ学習では、積極的に授業に参加すること。外部講師の授業はなるべく欠席しないこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション・発達障害分野OTのアプローチ(1)	授業オリエンテーション・発達OTで用いられる治療手技 ファシリテーションテクニック			
	2	発達障害分野のOTアプローチ(2)	発達OTで用いられる治療手技(人間作業モデル・摂食嚥下)・環境調整			
	3	発達障害分野のOTアプローチ(3)	発達障がい児・者に対するOTIについての論文検索と抄録作成・発表準備			
	4	発達障害分野のOTアプローチ(4)	発達障がい児・者に対するOTIについての論文検索と抄録作成・発表準備			
	5	発達障害分野のOTアプローチ(5)	文献抄録を使った発表体験・質疑応答			
	6	発達障害分野のOTアプローチ(6)	文献抄録を使った発表体験・質疑応答			
	7	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具(1)	福祉用具・自助具・遊具の実際 子どもが使う用具を選ぶ際のポイント 発達を支える・促す遊具作成～遊具体験・作成計画			
	8	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具(2)	福祉用具・自助具・遊具の実際 子どもが使う用具を選ぶ際のポイント 発達を支える・促す遊具作成～遊具体験・作成計画			
	9	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具(3)	発達を支える・促す遊具作成～材料選定・購入・作成			
	10	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具(4)	発達を支える・促す遊具作成～材料選定・購入・作成			
	11	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具(5)	発達を支える・促す遊具作成～作成年具の発表・体験会			
	12	発達障害で用いられる福祉用具・自助具・遊具(6)	発達を支える・促す遊具作成～作成年具の発表・体験会			
	13	作業療法の実際(1)	重症心身障害児・者に対する作業療法の実際			
	14	作業療法の実際(2)	発達障がい児に対する地域リハビリテーション			
15	作業療法の実際(3)	筋ジストロフィー児・者に対する作業療法の実際				

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	作業療法の実際(4)	筋ジストロフィー児・者に対する作業療法の実際
	17	感覚統合療法(1)	感覚統合理論の概要 感覚統合療法の実際(ビデオ鑑賞と解説)
	18	感覚統合療法(2)	感覚統合理論の概要 感覚統合療法の実際(ビデオ鑑賞と解説)
	19	感覚統合療法(3)	感覚統合遊具体験・分析
	20	感覚統合療法(4)	感覚統合遊具体験・分析
	21	摂食・嚥下・言語障害児に対するリハビリテーション(1)	摂食・嚥下・言語障害のある子どもに対する言語聴覚士の役割
	22	摂食・嚥下・言語障害児に対するリハビリテーション(2)	脳性麻痺児の摂食・嚥下・言語障害
	23	まとめ	前期受講内容のまとめ

授業科目 (科目ID)	発達障害作業治療学実習	担当教員 (実務経験)	田中 栄一 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 病院にて作業療法士として26年以上勤務
対象年次・学期	3年次・前期	担当教員	湯川 正雄
授業形態	実習	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内発達医療センターにて作業療法士として20年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	小熊 真喜子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として勤務
		担当教員 (実務経験)	池田 保 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として10年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	佐々木 勇輝 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内児童福祉施設にて6年勤務
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	義肢装具学(OT)		担当教員	目黒 文彦		
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	道内医療機関にて作業療法士として14年勤務
対象年次・学期	3年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	義肢装具の基本を学ぶ。義肢の理解を深める。主に上肢装具についての理解を深める					
到達目標	義肢装具を使用するうえで必要な上肢機能への解剖学・運動学的知識をもつ ハンドセラピーの基本を理解する 上肢装具の種類とその適応を答えられる 義手の適応、義手各部の名称、チェックアウトについて答えられる					
テキスト・ 参考図書等	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	臨床・教育において活躍されている先生の講義も多く実施します。興味を持って受講してください。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	義肢装具とは①	義肢装具概論(歴史、用途、作業療法における意味)			
	2	義肢装具とは②	義手・上肢装具を理解する上での基本事項(解剖学的・運動学的)			
	3	義肢装具とは③	義手・上肢装具を理解する上での基本事項(解剖学的・運動学的)			
	4	義手①	切断の種類、義手の構成・処方・適合について学ぶ			
	5	義手②	切断の種類、義手の構成・処方・適合について学ぶ			
	6	義手③	コントロールケーブルシステム、チェックアウトについて学ぶ			
	7	義手④	コントロールケーブルシステム、チェックアウトについて学ぶ			
	8	義手⑤	筋電義手について学ぶ			
	9	義手⑥	筋電義手について学ぶ			
	10	上肢装具①	上肢装具の分類・適応について			
	11	上肢装具②	上肢装具の分類・適応について			
	12	上肢装具とハンドセラピー①	上肢装具を必要とする疾患と障害、ハンドセラピーについて学ぶ			
	13	上肢装具とハンドセラピー②	上肢装具を必要とする疾患と障害、ハンドセラピーについて学ぶ			
	14	上肢装具とハンドセラピー③	上肢装具を必要とする疾患と障害、ハンドセラピーについて学ぶ			
15	上肢装具とハンドセラピー④	上肢装具を必要とする疾患と障害、ハンドセラピーについて学ぶ				

